

平成 26 年度
盛岡市教育委員会
点検評価報告書

(平成 25 年度実施事務事業)

平成 26 年 9 月

盛岡市教育委員会

目 次

第 1 章 教育委員会の点検評価について

1	はじめに	1
2	点検評価の対象	1
3	点検評価の方法	1
4	点検評価結果の構成	2
5	盛岡市教育ビジョンの構成	2

第 2 章 教育委員会の活動状況について

1	教育委員会の会議の開催状況	3
2	教育委員会の会議以外の活動状況	6

第 3 章 意見等に関する取組状況について

	平成 25 年度学識経験者の意見等に関する取組状況	7
--	---------------------------	---

第 4 章 点検評価の結果について

1	将来を担う次世代の育成	
	(1) 幼稚園・小中学校教育の充実	9
	(2) 高等学校教育の充実	14
	(3) 教職員研修の充実	17
	(4) 学校施設の充実	19
2	いつでもどこでも学ぶことができる環境の構築	
	(1) 生涯学習推進体制の充実	21
	(2) 社会教育の充実	22
	(3) 社会教育施設の整備と活用	25
3	歴史を受け継ぐ文化遺産の保護・活用	
	(1) 歴史的文化遺産の保護と活用	27
	(2) 博物館施設の整備と活用	29

第 5 章 学識経験者の意見等

1	点検評価会議の開催状況	31
---	-------------	----

2 学識経験者からの意見

- (1) 将来を担う次世代の育成31
- (2) いつでもどこでも学ぶことができる環境の構築31
- (3) 歴史を受け継ぐ文化遺産の保護・活用32

第1章 教育委員会の点検評価について

1 はじめに

盛岡市教育委員会では、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第27条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくため、自らが実施する教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（以下「点検評価」という。）を実施するものである。

2 点検評価の対象

点検評価の対象は、盛岡市基本構想の教育分野を具体化するものとして位置付けられる「盛岡市教育ビジョン」に基づいて、平成25年度に教育委員会が実施した事務事業とする。

3 点検評価の方法

- (1) 点検評価に当たっては、盛岡市総合計画の実施計画を構成する「基本事業」の成果を分析し、課題を明らかにするとともに、今後の取組方向を示す。
- (2) 点検評価の客観性を確保するため、学識経験者から意見を得る。

学識経験者

(敬称略)

氏名	所属・役職	備考
新妻 二男	岩手大学教育学部長	学校教育関係
大橋 清司	岩手県社会教育連絡協議会長	社会教育関係
熊谷 常正	盛岡大学文学部教授	文化財関係

4 点検評価結果の構成

- (1) 盛岡市総合計画の実施計画を構成する基本事業について点検評価を実施した。
- (2) 基本事業を構成する主な事務事業を示した。
- (3) 成果指標の達成状況を「A～Cランク」として評価し、課題を明らかにした。
 - ランクA：目標値を上回った。 (目標値の100%以上)
 - ランクB：おおむね目標値のとおりだった。 (目標値の80%以上100%未満)
 - ランクC：目標値を下回った。 (目標値の80%未満)
- (4) 全体的な取組内容と成果の分析を行い、今後の課題と取組方向を示した。

5 盛岡市教育ビジョンの構成

○めざす市民像

多くの先人を育んできた美しいふるさと盛岡を愛し、豊かな心とすこやかな体を持ち、自ら学び、共に生きる未来を創る人

○5つの施策の柱及びそれを構成する項目

【将来を担う次世代の育成】

- ・小中学校教育の充実
- ・幼稚園教育の充実
- ・高等学校教育の充実
- ・教職員研修の充実
- ・学校施設の充実

【いつでもどこでも学ぶことができる環境の構築】

- ・生涯学習推進体制の充実
- ・社会教育の充実

【生涯にわたり楽しめるスポーツ・レクリエーションライフの実現】

- ・スポーツ・レクリエーション活動の充実

【豊かな心を育む芸術文化活動の支援】

- ・文化施設の整備と活用

【歴史を受け継ぐ文化遺産の保護・活用】

- ・歴史的文化遺産の保護と活用

第2章 教育委員会の活動状況について

1 教育委員会の会議の開催状況

教育委員会の会議は、毎月1回定例会を開催し、必要に応じて臨時会を開催している。平成25年度の開催状況は、次のとおりである。

(1) 開催状況

ア 教育委員会定例会 12回

イ 教育委員会臨時会 2回

(2) 審議等の概要

ア 審議件数 46件

審議内容	件数
基本的な方針を決定すること。	4
規則及び訓令を制定し、又は改廃すること。	8
職員の任免その他の人事を行うこと。	4
県費負担教職員の任免その他の進退についての内申を行うこと。	5
附属機関の委員を任免すること。	13
教育委員会の権限に属する事務の点検及び評価を行うこと。	1
教科書の採択を行うこと。	0
市議会の議決を経るべき事案に係る市長への意見の申出	7
盛岡市文化財保護条例に規定する文化財の指定及び解除を行うこと。	2
上記のほか重要かつ異例に属すること。	2

イ 主な報告件数 20件

(3) 議案等の状況

【4月定例会（4月23日）】

議案第1号 臨時専決処理につき承認を求めることについて

議案第2号 盛岡市障害児就学指導委員会委員の委嘱について

議案第3号 盛岡市社会教育委員の任免について

議案第4号 盛岡市子ども科学館協議会委員の任免について

議案第5号 盛岡市公民館運営審議会委員の任免について

議案第6号 盛岡市図書館協議会委員の解職について

報告事項 ・平成25年度盛岡市障害児就学指導委員会専門委員の委嘱等について

・市教育委員会指定校並びに学校公開について

【5月定例会（5月23日）】

議案第7号 盛岡市先人記念館協議会委員の任免について

- 議案第8号 盛岡市石川啄木記念館管理運営規則について
議案第9号 市議会の議決を経るべき事案に係る市長への意見の申出について
報告事項 ・盛岡市学力向上プロジェクトについて
・平成25年度盛岡市学校教育指導委員の委嘱について

【6月定例会（6月26日）】

- 議案第10号 第二次盛岡市立高等学校教育改革基本方針について
議案第11号 盛岡市子ども科学館協議会委員の委嘱について
議案第12号 盛岡市公民館運営審議会委員の任免について
議案第13号 盛岡市図書館協議会委員の委嘱について
報告事項 ・平成25年6月市議会定例会の概要について
・平成24年度に実施した盛岡市立小中学校第2次耐震診断等の結果について
・平成25年度第1回盛岡市社会教育員会議の概要について

【7月定例会（7月22日）】

- 議案第14号 盛岡市指定文化財の保持団体の追加認定について
議案第15号 県費負担教職員の懲戒処分の内申について
議案第16号 県費負担教職員の懲戒処分の内申について
報告事項 ・盛岡市立区界高原少年自然の家運営委員の委嘱について

【8月定例会（8月22日）】

- 議案第17号 臨時専決処理につき承認を求めることについて
議案第18号 市議会の議決を経るべき事案に係る市長への意見の申出について
報告事項 ・平成25年度アールム大学生短期留学受入れについて（SICEプログラム）

【9月定例会（9月26日）】

- 議案第19号 臨時専決処理につき承認を求めることについて
議案第20号 平成25年度盛岡市教育委員会点検評価報告書について
議案第21号 平成26年度における盛岡市立高等学校入学者選抜の基本方針について
議案第22号 盛岡市社会教育委員の委嘱について
報告事項 ・平成25年9月市議会定例会の概要について
・平成25年度盛岡市教育振興運動地区別集会の開催について
・平成25年度東北地区社会教育研究大会・第58回東北地区公民館大会の開催について

【10月定例会（10月21日）】

- 議案第23号 学校の廃止について
議案第24号 教育機関の廃止について
議案第25号 盛岡市先人記念館協議会委員の委嘱について
議案第26号 市費負担教職員の懲戒処分について

【11月定例会（11月26日）】

- 議案第27号 市議会の議決を経るべき事案に係る市長への意見の申出について
議案第28号 平成26年度における盛岡市立学校教職員に係る定期人事異動方針について
報告事項 ・平成25年度第2回盛岡市社会教育委員会議の概要について
・盛岡市立小中学校学校給食基本方針（案）の修正について

【12月定例会（12月24日）】

- 議案第29号 盛岡市立小中学校学校給食基本方針について
議案第30号 盛岡市立高等学校管理運営規則の一部を改正する規則について
議案第31号 盛岡市と滝沢村との間の学齢児童等の教育に関する事務の委託に関する規約の一部を改正する規約について
議案第32号 盛岡市社会教育委員会議運営規則の一部を改正する規則について
報告事項 ・平成25年12月市議会定例会の概要について
・平成25年度盛岡市教育振興運動地区別集会について
・平成28年度以降の盛岡市立高等学校の入学者選抜について

【1月定例会（1月23日）】

- 議案第33号 盛岡市学齢児童生徒の就学すべき学校の指定に関する規則の一部を改正する規則について
議案第34号 県費負担教職員の懲戒処分の内申について
報告事項 ・平成25年度盛岡市教育振興運動実践発表大会について

【2月定例会（2月25日）】

- 議案第35号 臨時専決処理につき承認を求めることについて
議案第36号 盛岡市文化財の指定について
議案第37号 県費負担教職員の懲戒処分の内申について

【2月第1回臨時会（2月27日）】

- 議案第38号 盛岡市立小・中学校長の人事異動の内申について

【3月第1回臨時会（3月17日）】

- 議案第39号 盛岡市教育委員会の事務局及び教育機関の課長級以上の職員の人事異動について

【3月定例会（3月25日）】

- 議案第40号 臨時専決処理につき承認を求めることについて
議案第41号 盛岡市学校給食センター管理運営規則等の一部を改正する規則について
議案第42号 盛岡市教育委員会服務規程等の一部を改正する訓令について
議案第43号 盛岡市公民館運営審議会委員の委嘱について
議案第44号 盛岡市文化財保護審議会委員の委嘱について
議案第45号 盛岡市教育委員会の教育機関の課長級以上の職員の人事異動について

議案第46号 市費負担教職員の懲戒処分について

報告事項 ・平成26年3月市議会定例会の概要について

・盛岡市立高等学校授業料等条例の一部を改正する条例について

2 教育委員会の会議以外の活動状況

(1) 予算に関する市長等との懇談会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第29条の規定に基づき、教育委員会に係る平成26年度予算について、市長、副市長及び関係部長に対し意見を申し述べた。

(2) 学校訪問

学校現場の実態把握を目的として、市内の小中学校（本宮小学校、羽場小学校、大宮中学校及び飯岡中学校）を訪問し、教職員と意見交換を行った。

(3) その他行事への出席

教育振興運動関係行事、市立学校の入学式・卒業式、学校周年行事、成人のつどい等に参加した。

第3章 意見等に関する取組状況について

平成25年度学識経験者の意見等に関する取組状況

	意見等	検討結果及び取組状況
将来を担う次世代の育成	① 小中学校学力検査の5段階分布において、1～2段階のレベルをどう上げるかの分析をする必要がある。	【学校教育課】 学習内容が難しくなってくる小学校高学年において、算数に苦手意識を持つ児童が増加することから、授業内に基礎基本の習熟のための時間を確保し、個別指導を行うことにより、学習に対する自信と意欲を持たせるよう取り組んでいる。
	② 学力テストの正答率を向上させるために、教職員が児童生徒の苦手とする問題を自作するような対策も必要である。	【学校教育課】 教員が実際に調査問題を解くことを通して、現在求められている学力を知り、授業改善につながるよう指導している。中学校では、自作の定期テストで、答えの求め方や説明まで記述させるような問題を出题するようになっている。
	③ 体力運動能力検査の全国水準との比較について、各家庭への働きかけが必要というはそのとおりだが、教育委員会として、地域の子ども会や社会教育関係団体へどのように関わるができるかを考えていく必要がある。	【学校教育課】【生涯学習課】 子ども会ドッジボール大会のための指導者講習会の実施、同大会の共催のほか、区界高原少年自然の家でのリーダー研修会では、集団ゲームの指導などを実施している。また、少年指導員連絡協議会等の活動を通じて、各学校でニュースポーツ等の指導を行っている。今後も、関係部局と連携しながら子どもの体力等の向上を促進していく。
	④ 運動能力について、県の肥満率が全国1位というデータがある。運動能力の結果について分析し、具体的な対策が必要である。	【学校教育課】 市の肥満率は、県の数値よりは低いものの全国平均を上回っていることから、体育の授業で運動量を確保するとともに、業間や昼休み等の時間を使った計画的・継続的な体力向上の取組を強化する必要がある。 26年度は、運動量を確保した体育の授業の具体的な指導方法について研究委託を行い、その成果を共有することで、教員の指導力向上及び児童生徒の体力運動能力の向上を図る。
	⑤ 耐震化率について、耐震の指数が低い建物がまだあるということであれば、早急に耐震工事が必要である。	【総務課】 「盛岡市立小中学校耐震化計画（非木造）」に基づき、木造施設を含め、平成27年度末までに耐震化の完了を目指すものとする。

	意見等	検討結果及び取組状況
いつでもどこでも学習がいつでもできる環境の構築	⑥ 学習相談件数が減ったから、生涯学習体制の充実の目標が達成できなかったということではないのではないか。成果指標を見直す必要がある。	【生涯学習課】 実際に学習活動を行っている者の数(学習サークルの参加者数等)など、市民の学習の状況を反映できる指標について、今後検討していく。
	⑦ 市の講座数そのものが停滞化している。アンケートの分析はしているか。講座をどのように開設したら良いかという目的をもったアンケートが必要である。	【生涯学習課】 講座に係る意見については、受講者アンケートにより把握しているが、個人の教養を高める講座の実施要望が多い。これらの要望に対応しつつ、現代的課題に関する視点を織り交ぜるなどの工夫を進める。
	意見等	検討結果及び取組状況
歴史を受け継ぐ文化遺産の保護・活用	⑧ 文化財を増やすとすれば、近代的なものをどのように位置付けるかが重要になるので、普段の町家の実態調査が必要である。また、植物が天然記念物になっているものがあるが、一度指定して終わりではなく、その後の管理システムも必要である。	【歴史文化課】 現存する町家について、今後、どのような文化的価値付けができるかを研究していく。 また、天然記念物の樹木については、定期的に樹木医の診断を受けており、カキツバタについては大学と共同で管理方法の調査研究を行っている。
	⑨ 教育委員会で指定文化財に解説板を立てたりはしているが、学校との連携により、修学旅行生だけでなく、市内生徒にとっても自分たちの町の歴史や文化を知る機会になるよう、学校教育と社会教育を1つのチームとして検討されると良い。	【歴史文化課】【学校教育課】 市内生徒が自分たちの町の歴史や文化を知ることが、大変重要なことであり、学校教育と連携し、出前講座を行うことや解説板の改修に努めている。 なお、各博物館施設の取組については、校長園長会議を通じて周知を図り、学校教育と連携している。
	⑩ もりおか歴史文化館に説明ボランティアを配置し、盛岡城跡公園の説明ボランティアと互いに連携することを強化してほしい。	【歴史文化課】 もりおか歴史文化館の説明ボランティアと盛岡城跡公園の説明ボランティアとは、相互理解を図り、連携を行っている。

第4章 点検評価の結果について

1 将来を担う次世代の育成

(1) 幼稚園・小中学校教育の充実

■ 主な事務事業

【総務課】

安全衛生事務 岩手県市町村教育委員会協議会事務

【学務教職員課】

学齢簿管理事務事業 スクールバス運行事業 学校給食運営事業 要保護・準要保護児童生徒就学援助事業 特別支援教育就学奨励事業 少人数指導推進事業 へき地小規模校就学援助事業 市立中学校（14校）完全給食実施事業

【学校教育課】

コンピュータ教育設備整備事業 小中学校幼稚園教育振興事務 学校安全対策事業 学校訪問指導事業 研究指定校事業 教育振興運動事業 外国人英語指導講師招へい事業 学校支援事業 学校プール管理事務 学校保健事業 小中学校幼稚園管理配分事務 先人教育推進事業 復興教育支援事業

【都南学校給食センター】

小・中学校給食供給事業（都南地区 13校）

【玉山学校給食センター】

小・中学校給食供給事業（玉山区 11校）

【教育研究所】

適応指導教室事業

■ 数値による分析・評価

○目標 児童生徒の「生きる力」を支える「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をバランスよく育むことに努め、児童生徒の知・徳・体を全国水準以上に高める。

【具体的取組】「学力向上プロジェクト事業」「不登校対策事業」「体力運動能力向上事業」による全市的な取組

○対象指標 市立幼稚園児数 102人，市立小学校児童数 15,127人，市立中学校生徒数 7,695人（平成25年5月1日学校基本調査）

○成果指標 ①小中学校学力検査の全国水準との比較

②問題行動（不登校）の出現率

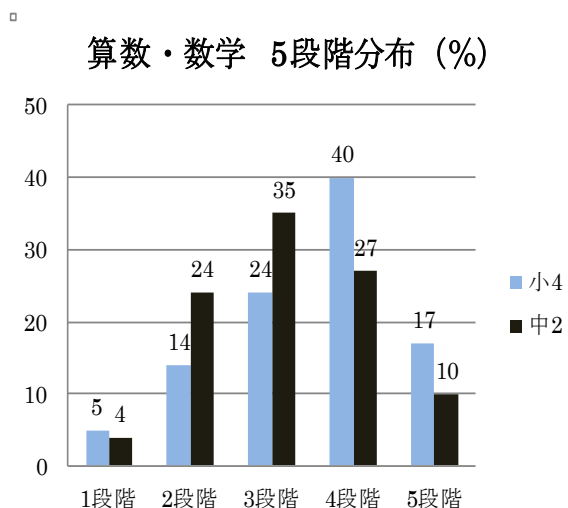
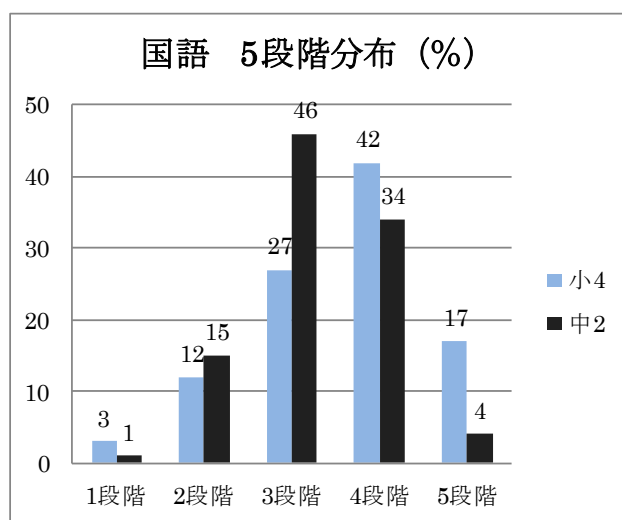
③体力運動能力の全国水準との比較（全国水準を上回っている種目数）

④体力運動能力調査の全国水準との比較

① 小中学校学力検査の全国水準との比較（全国水準 100）

区 分		22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度 (最終年度)
国語 (小4)	目標値	110.8	111.1	111.4	111.7	112.0
	実績値	109.4	109.2	111.8	110.6	
算数 (小4)	目標値	109.2	109.9	110.6	111.3	112.0
	実績値	108.0	110.4	107.8	108.4	
国語 (中2)	目標値	110.4	110.8	111.2	111.6	112.0
	実績値	108.0	107.6	106.2	103.8	
数学 (中2)	目標値	104.5	105.3	106.2	107.1	108.0
	実績値	101.8	102.8	102.2	102.2	

(参考) 小中学校学力検査の5段階分布 (平成 25 年度)



② 問題行動（不登校）の出現率 (%) (24 年度全国水準 小学校 0.33 中学校 2.65)

区 分		22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度 (最終年度)
小学校	目標値	0.28	0.28	0.28	0.28	0.28
	実績値	0.17	0.10	0.15	0.19	
中学校	目標値	2.65	2.64	2.64	2.64	2.64
	実績値	2.54	2.24	1.93	1.99	

③ 体力運動能力の全国平均との比較（全国水準を上回っている種目数）

区 分		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度 (最終年度)
小学校	目標値	50	50	50	50	50
	実績値	49	39	39	39	
中学校	目標値	41	41	43	45	48
	実績値	41	40	26	33	

*小・中学校ともに、握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、シャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ボール投げの8種目の検査であり、小学校は8種目×6学年×2(男女)=96種目、中学校は8種目×3学年×2(男女)=48種目での比較である。

④ 体力運動能力検査の全国水準との比較（全国水準100）

区 分		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度 (最終年度)
男子(小5)	目標値	101.0	101.1	101.4	101.7	102.0
	実績値	100.4	データなし	99.8	97.8	
女子(小5)	目標値	102.0	102.1	102.4	102.7	103.0
	実績値	102.8	データなし	100.8	100.5	
男子(中2)	目標値	109.0	109.0	109.0	109.0	109.0
	実績値	111.2	データなし	107.4	100.4	
女子(中2)	目標値	103.0	103.1	103.4	104.0	104.0
	実績値	102.8	データなし	104.2	100.2	

*平成22年度は抽出校調査となり、盛岡市内の調査対象校数は小学校9校、中学校6校

*平成23年度は、東日本大震災の影響により、全国調査は実施されていない。

*平成24年度は、抽出校調査で、盛岡市内の調査対象校数は小学校10校、中学校10校

*平成25年度は、悉皆調査で、盛岡市内の全小・中学校が対象

<成果の分析と課題>

区分	目標達成度	成果の要因についての分析	今後の課題
【指標①】 小中学校 学力検査 の全国水 準との比 較	B	<p>学力向上プロジェクトによる授業改善の全市的な取組の成果により、小学校4年の算数で0.6ポイントの上昇、中学校数学で昨年度と同値の結果となった。</p> <p>しかし、中学校国語で問題文が長文となったことや、記述式の回答が増えたことにより、2.4ポイント減少という結果となった。</p>	<p>学校間による数値の差が認められることから、全市的に目指す授業像を共有し授業改善に取り組むこと、成果の不十分な学校に指導主事が継続的に指導に入ることが必要である。</p> <p>また、決められた時間内に題意を的確に読み取る力や相当量の文章を書くスピードなど、学年の発達段階に応じ、継続して力を付ける指導も必要である。</p>

区分	目標達成度	成果の要因についての分析	今後の課題
【指標②】 問題行動 (不登校) の出現率	A	<p>校内体制の整備や不登校等対策相談員の活用により、初期段階や別室登校生徒へ適切な対応が図られ、小・中学校ともに多少の増加が見られたが、低い出現率を維持している。</p> <p>また、適応指導教室「ひろばモリーオ」と学校のきめ細かな連携により、相談活動が充実し、学校復帰できたケースが増加した。</p>	<p>25年度は、小学校6年生の不登校児童数が増加した。26年度は中学校1年生の不登校生徒の増加が懸念されるため、きめ細かな個別の配慮が必要である。</p> <p>また、中学校2,3年での新規不登校生徒が増加していることから、全学年において新規不登校を出さないための初期対応のあり方について、指導の強化を図る必要がある。</p>
【指標③】 運動能力 の全国水 準との比 較(全国水 準を上回 っている 種目数)	C	<p>小学校は、24年度と比較すると男子では4種目増加したが、女子では4種目減少した。</p> <p>中学校は、24種目中男子16種目、女子17種目で全国水準を上回り、改善傾向がうかがえる。</p> <p>中学校では、部活動を中心とした運動習慣が成果につながっているが、小中ともに体育の授業での運動量の確保は十分でない。</p>	<p>ここ数年、小学校の体力向上を図ることが課題となっており、授業の改善(ダッシュ、跳ぶ、投げる運動を多く取り入れること)や業間や昼休み等の時間を使った計画的・継続的な体力向上の取組が必要である。26年度は、運動量を確保した体育の授業の具体的な指導方法について、委託研究を行い、その成果を共有する。</p>
【指標④】 体力運動 能力検査 の全国水 準との比 較(全国水 準100)	B	<p>24年度との比較でみると、中学2年生は男女とも数値が減少しているが、小・中学校ともにほぼ全国水準と言える数値である。</p>	<p>小・中学校ともに、ほぼ全国水準であるが、運動量を確保した体育授業のあり方や、中学校の部活動の活性化により、更に体力向上の取組を充実させる。</p>

■ 全体的な取組内容と成果の分析

学力向上については、平成21年度から全市をあげて「盛岡市学力向上プロジェクト」の取組みとして、①学習規律の徹底②授業改善③家庭学習時間の質と量の向上④読書生活の充実⑤小中連携の充実に取組んでおり、その成果が少しずつ現われてきている。

25年度は中学2年生の国語で多少の低下が見られたが、おおむね目標値に近い値となった。

豊かな心の育成については、各学校における道徳教育・先人教育の推進、「もりおか心のかけはしプロジェクト」による沿岸被災地との交流、学校・家庭・地域が連携して「読書活動」「体験活動」「生活習慣の確立」の充実に図る教育振興運動の推進、問題行動の早期発見・早期対応を図ったことにより、不登校児童生徒の出現率は依然低い状況であり、いじめ等の問題にも適切に対応することができた。

体力運動能力の向上については、各学校での取組により、全国水準と比較すると小学5年男子でやや下回ったものの、ほぼ全国水準と同じ結果であった。

■ 今後の課題と取組方向

学力向上については、落ち込みが見られた中学校の国語を向上させること、中学校の数学及び英語の学力をさらに向上させることが課題である。授業改善を図るため、教師の一方的な教え込みを止め、児童生徒の思考を促す発問や場の設定に、全市を挙げて継続して今後も取り組む。また、決められた時間内に題意を的確に読み取る力や相当量の文章を書くスピードなど、学年の発達段階に応じ、継続して力を付ける指導も必要である。

また、家庭での学習の充実に向け「家庭学習・読書時間強化作戦」を6月と11月に市内小中学生を対象に、家庭の協力を得ながら一斉に実施する。

豊かな心の育成については、道徳の授業の充実に図り、児童生徒の心を育てるとともに、学校での計画的、系統的な指導により、引き続きいじめなどの問題行動の未然防止に取り組む。また、学校全体での情報の共有化や教育相談体制の更なる充実に図り、問題行動の早期発見や不登校児童生徒の減少を図る。

体力運動能力については、運動量を確保した体育の授業のあり方についての研究を委託し、その成果を共有することで、教員の指導力向上及び児童生徒の体力運動能力の向上を図る。

また、スポーツ推進課が推進する「盛岡市次世代体力・運動能力向上プロジェクト」と連携し、29年度までに盛岡市立全小学校においてSAQトレーニングに取り組むこととしている（26年度は、44校中25校で実施）。

学校での体力向上の取組に加え、特に小学生の体力向上を図るため、帰宅後や休日の外遊びを家庭に奨励していく。

市立幼稚園における幼児教育については、幼稚園教諭に対しての研修を実施し、指導力の向上を図っていくとともに、少子化により園児数が減少傾向にあるため、今後の幼児教育の在り方を検討していく必要がある。

※ SAQトレーニングとは、走る速さ、曲がる・止まる、すばやく反応するといった運動の基

本を養うトレーニングであり、小学校では特に、「走力」を高める運動メニューを取り入れている。(S=スピード, A=アジリティ, Q=クイックネス)

(2) 高等学校教育の充実

■ 主な事務事業

【市立高等学校】

教育振興事業, 学力向上・部活動強化推進事業

■ 数値による分析・評価

○目標 生徒の学力の向上及び心身の健全育成を図る。

【具体的取組】授業の充実, 部活動の振興などによる学力の向上及び心身の健全育成
生徒指導に立脚した規律ある生活習慣の確立
一人ひとりを生かした進路指導の充実

○対象指標 市立高等学校生徒数 907 人 (平成 25 年 5 月 1 日学校基本調査)

○成果指標 ①進学・就職進路の達成率

②国公立大学合格者数

③文部科学省新体力テストの全国水準との比較 (得点平均値の差)

④不登校発生率

① 進学・就職進路の達成率 (%)

区 分		22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度 (最終年度)
達成率	目標値	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0
	実績値	96.6	96.9	99.0	98.3	

(参考) 進学・就職進路の達成率内訳 (%)

区 分		22 年度	23 年度	24 年度	25 年度
達成率	進学率	95.5	95.9	98.6	97.9
	就職率	100	100	100	100

② 国公立大学合格者数 (人)

区 分		22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度 (最終年度)
合格者数	目標値	30	50	50	50	50
	実績値	34	30	33	45	

(参考) 私立大学合格者数 (人)

区 分		22年度	23年度	24年度	25年度
合格者数	実績値	57	50	54	49

③ 文部科学省新体力テストの全国水準との比較 (得点平均値の差)

区 分		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度 (最終年度)
男子生徒	目標値	+3.70	+5.20	+5.20	+5.20	+5.20
	実績値	+4.50	+3.42	+6.11	+4.82	
女子生徒	目標値	+3.10	+4.10	+4.10	+4.10	+4.10
	実績値	+3.02	+2.64	+4.01	+5.11	

*平成25年度男子平均 全国 54.26 本校 59.08 差+4.82

*平成25年度女子平均 全国 50.49 本校 55.60 差+5.11

④ 不登校発生率 (%)

区 分		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度 (最終年度)
発生率	目標値	0.80	0.80	0.80	0.80	0.80
	実績値	1.46	1.12	0.45	0.88	

※年間30日以上欠席者が対象→平成25年度8名(うち3名は退学)

※全国公立高等学校不登校発生率 平成24年度1.93%

<成果の分析と課題>

区分	目標達成度	成果の要因についての分析	今後の課題
【指標①】 進学・就職 進路の達成率	A	生徒一人ひとりの進路目標の実現に向けて、3年間を見通した進路指導計画に基づく指導や生活指導と一体化した進路指導等に取り組んできた成果が表れた。	1 教員研修を工夫し、授業をより充実して学力向上に努めるとともに、キャリア教育の推進を図るなど、生徒の自己実現のため、更に進路指導の充実を図る必要がある。 2 就職支援相談員を継続して配置し、就職相談等の支援の充実を更に図る必要がある。
【指標②】 国公立大学合格者数	B	受験に向けた指導や進路指導を効果的に行うことにより、学力の向上を図る授業が充実し、生徒個々の学力が確実に向上してきている。	学力の向上を図る授業の充実はもとより、生徒個々への指導の充実、保護者への指導等きめ細かな進路指導を進める必要がある。 また、進路指導に係る教員研修の充実や県立高等学校との人事交流を図る必要がある。

【指標③】 文部科学 省新体力 テストの 全国水準 との比較 (得点平 均値の差)	B	男子生徒については目標値に達し なかったが、女子生徒は目標値を上 回った。男女とも全国の水準に比較 して高い結果となっており、体育科 をはじめとして日常的な体力づくり に取り組んでいることが成果につな がっている。	計画的な体力向上の取組を継続的 に行う必要がある。 さらに、施設面の充実も図る必要 がある。
【指標④】 不登校発 生率	B	全教職員が、スクールカウンセラ ーと連携し、校内指導に継続して取 り組んでいる。	スクールカウンセラーと協力して 対策を講ずるほか、将来の自らのあ り方生き方に気付かせるためキャリ ア教育を充実させる必要がある。

■ 全体的な取組内容と成果の分析

市立高等学校では、平成16年度から21年度まで第一次市立高等学校教育改革を実施した結果、国公立大学への進学率向上と就職内定率100%達成などめざましい成果を上げた。引き続き、文武両道の教育方針を推進しながら、教育環境の変化に対応するため、平成25年度から32年度までの第二次市立高等学校教育改革基本方針を策定し、県内唯一の市立高等学校として特色ある校風の創出に努めた。

平成25年度末における成果指標は、進学・就職進路の達成率は98.31%、国公立大学合格者数は45名となっており、進学及び就職については、入学目的の明確な生徒に対する意図的かつ計画的な指導の積み重ねとPTA及び地域の支援により、実績値が向上した。また、新体力テストの全国水準との比較では、運動部活動の活性化を図るとともに、体育の授業や校内行事を通じた計画的かつ継続的な体力づくりの取組により、男子生徒は4.82ポイント、女子生徒は5.11ポイント全国平均を上回った。不登校の発生率は0.88%で目標値をわずかに下回った。

■ 今後の課題と取組方向

市立高等学校については、国公立大学合格者数は前年より12人増加し45人で県内では14番目の進学校となり、また、就職率は10年連続し100%を維持しており、進学・就職進路の達成率は、目標を達成していることからこの状況を維持していくとともに、今後も引き続き生徒の第一希望の進路達成に向けて取り組んでいく必要がある。また、平成26年度に第二次市立高等学校教育改革年度別計画を策定し、創立100周年を迎える平成32年度までの個別計画により、今後さらにソフト・ハードの両面から市立高等学校の存在価値を高め、より魅力ある学校となるよう改革を進めていく必要がある。

(3) 教職員研修の充実

■ 主な事務事業

【総務課】 職員研修事務 【教育研究所】 教育研修事業
--

■ 数値による分析・評価

○目 標 教職員の資質及び指導力の向上を図る。

【具体的取組】 教員のニーズに応じた研修事業の実施

○対象指標 市立幼稚園教職員数15人，市立小学校教職員数886人，市立中学校教職員数538人

- 成果指標 ①学校公開研究会の参加者数
 ②教育研究所公開講座参加者数
 ③公開講座参加者の満足度

① 学校公開研究会の参加者数（人）

区 分		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度 (最終年度)
参加者数	目標値	1,650	1,650	1,650	1,650	1,650
	実績値	2,571	1,883	2,593	2,752	

② 教育研究所公開講座参加者数（人）

区 分		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度 (最終年度)
参加者数	目標値	696	697	700	700	700
	実績値	671	799	579	602	

③ 公開講座参加者の満足度（％）

区 分		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度 (最終年度)
参加者数	目標値	94.00	95.00	97.00	98.00	100
	実績値	92.00	92.00	94.00	99.70	

<成果の分析と課題>

区分	目標達成度	成果の要因についての分析	今後の課題
【指標①】 学校公開 研究会参 加者数	A	市の重点施策である小中一貫教育への理解が進み、校種の枠を超えて公開へ参加する教員が増えたことが要因としてあげられる。	26年度は、小中一貫教育の公開校1校を含む7校の公開が予定されている。特に市指定公開への参加を呼びかける。
【指標②】 教育研究 公開講座 参加者数	B	「運動部活動運営講座」「情報モラル」など、学校・教職員のニーズを踏まえ、24年度とほぼ同数の35講座を開設し、平成24年度の実績値を大きく上回ることができたが、同時期に授業力向上研修や、教育課程協議会等の研修が重なっており、目標値を下回った。	盛岡市の教育課題、研修者のニーズや課題意識等を踏まえ、講座の内容を工夫・改善し、教員の研修意欲を更に高めていく。 他機関の研修時期を考慮し、参加者を確保しやすい時期の開催を検討していく。
【指標③】 公開講座 参加者の 満足度	A	今日的な教育課題や参加者のニーズを踏まえながら、新しい講座を開設し、目標値を上回ることができた。	今後も、研修者のニーズや課題意識を把握し、それに対応した講座の設定や講師の人選を行っていく。

■ **全体的な取組内容と成果の分析**

教職員の指導力の向上については、教育課題について具体的かつ実践的な解決を図るため、教育研究所で「公開講座」を長期休業中（夏・冬）に開設した。平成25年度は3日間で35講座を開設し、参加者は延べ602名であった。このほかに、初任者研修、経験2年経過研修会、先人教育研修会、養護教諭研修会及び教育研究所研究発表大会を実施している。

これらの研修は、参加者の満足度も高く、教員としての使命感の高揚や指導力の向上につながっている。

■ **今後の課題と取組方向**

「公開講座」で開設する講座については、「情報モラル」や「体力向上」といった今日的な教育課題に加え、教職員のニーズに応じた講座の内容や方法の改善を行うため、研修後のアンケート「研修について感想や要望等」欄（自由記載）から、研修の状況について具体的に把握し、工夫・改善を加えながら事業を展開していく必要がある。

(4) 学校施設の充実

■ 主な事務事業

<p>【総務課】</p> <p>校舎・屋体耐震診断事業 耐震補強設計事業 厨川中学校校舎改築事業 城東中学校校舎改築事業 城西中学校校舎改築事業 厨川中学校屋内運動場耐震整備事業 向中野小学校建設事業 土淵小・中学校一貫教育導入施設整備事業 渋民小学校施設整備事業 障がい児等対策整備事業 校舎等維持補修事業 学校施設等整備事業</p>
--

■ 数値による分析・評価

○目標 学校施設の早期耐震化を図る。

【具体的取組】小中学校校舎・屋内運動場の耐震診断の実施

耐震診断結果に基づく耐震補強工事又は改築工事の実施

○対象指標 市立小学校の棟数 199 棟，市立中学校の棟数 149 棟

○成果指標 ①耐震化率

② I s 値 0.3 未満の建物（棟数）

① 耐震化率（％）

区 分		22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度 (最終年度)
小中学校	目標値	70.00	71.13	74.14	81.66	75.00
	実績値	70.00	73.28	75.86	79.24	

② I s 値 0.3 未満の建物（棟数）

区 分		22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度 (最終年度)
小中学校	目標値	7	8	6	3	0
	実績値	9	9	8	5	

<成果の分析と課題>

区分	目標達成度	成果の要因についての分析	今後の課題
【指標①】 耐震化率	B	平成 20 年の地震防災対策特別措置法の改正により、財政上の地方負担が軽減されたことを受け、積極的に事業を実施した結果、耐震化率が向上している。	効率的かつ円滑な工事の実施に努め、平成 27 年度までの耐震化の完了を目指すものとする。
【指標②】 Is 値 0.3 未満の建物	C	平成 25 年度に 12 棟の建物の耐震化が完了したが、同年度の第 2 次耐震診断の結果、Is 値 0.3 未満の建物 3 棟が新たに判明した。	

■ **全体的な取組内容と成果の分析**

学校施設については、城東中学校及び城西中学校の校舎改築工事、肢体不自由児特別支援学級を開設している上田中学校へのエレベーター設置、下橋中学校、上田中学校及び仙北中学校の耐震補強工事により耐震化を図ったほか、土淵小・中学校屋内運動場建設工事を行った。維持管理については、学校施設の長寿命化を図るため、校舎等の修繕を実施し、適切な維持保全に努めた。

■ **今後の課題と取組方向**

学校施設については、計画的な維持補修に努めるとともに、「盛岡市立小中学校耐震化計画(非木造)」に基づき、木造施設を含め、平成27年度までに耐震化の完了を目指すものとする。

2 いつでもどこでも学ぶことができる環境の構築

(1) 生涯学習推進体制の充実

■ 主な事務事業

<p>【生涯学習課】 生涯学習推進事業</p> <p>【中央公民館】 公民館活動事業</p>
--

■ 数値による分析・評価

- 目 標 生涯にわたって学習に主体的に取り組める環境を整えるために、学習指導者を発掘・育成し、その登録者数を増やして充実を図る。また、多様な相談内容に対応ができるように、職員の資質向上を目指すなど、相談体制の充実に努める。

【具体的取組】様々なメディアを活用して、指導者情報や講座の開設情報の効果的な提供を図る。また、定例的な質問についてQ&Aを作成するなど相談体制の充実を図る。

- 対象指標 推計人口（*）

* 推計人口とは、5年ごとに実施される国勢調査の常住人口（住民登録の有無にかかわらず、3か月以上住んでいる人及び住む予定の人）を基準として、各月の出生、死亡、転入、転出、外国人登録及び帰化の届出数を加減して、常住とみなしている人口である。

- 成果指標 ①生涯学習指導者登録数
②学習相談件数

① 生涯学習指導者登録数

区 分		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度 (最終年度)
登録数	目標値	700	700	700	700	700
	実績値	624	663	353	357	

② 学習相談件数

区 分		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度 (最終年度)
相談数	目標値	460	750	750	750	750
	実績値	709	568	427	577	

<成果の分析と課題>

区分	目標達成度	成果の要因についての分析	今後の課題
【指標①】 生涯学習 指導者登 録数	C	平成 24 年度の指導者登録更新に際し、指導実績を条件とし、実績のある者が登録されるよう整理したことから、登録数が減少している。	市民ニーズに応えた指導者を発掘するなど、学習指導者を充実していく必要がある。
【指標②】 学習相談 件数	C	市の事業に関するものと学びの循環推進事業に関するものが増加しているが、全体的には過去に比較して減少している。	施設やサークル等に関する相談が一定数見られるが、増加傾向にはない。直接的な学習相談だけでなく、インターネット等を活用した市民の学習情報取得の動向を把握し、分析する必要がある。

■ **全体的な取組内容と成果の分析**

特技や専門的な知識を有する市民を登録し、市民の学習会に派遣する「学びの循環推進事業」を周知するとともに、実績のある指導者の登録を行った。また、市民の生涯学習活動の推進のために、市のホームページに「講座募集情報」を掲載するほか、民間情報紙を活用して市民へ学習情報の提供に努めた結果、市の事業に関する相談件数の増加につながったと考えられる。

■ **今後の課題と取組方向**

学びの循環推進事業の普及に努め、指導者派遣件数の増加を目指すとともに、市民ニーズに対応できるより質の高い指導者を発掘し、充実していく必要がある。

学習相談については、件数把握だけではなく、相談の内容を詳細に分析することにより、学習意欲やニーズ等の把握に活用できるよう取り組む必要がある。また、近年、市民が学習情報を得るための手段として、インターネット等の利用が多くなっていると考えられることから、こうした方法による学習情報取得の動向を調査・分析していく必要がある。

(2) **社会教育の充実**

■ **主な事務事業**

【生涯学習課】

社会教育促進事業 学校・家庭・地域連携協力推進事業 青年教育促進事業

【中央公民館】

中央公民館活動事業 中央公民館太田分館活動事業 中央公民館図書室活動事業

【上田公民館】

上田公民館活動事業 上田公民館図書室活動事業

<p>【西部公民館】</p> <p>西部公民館活動事業 西部公民館パソコン教室運営事業 西部公民館図書室活動事業</p> <p>【渋民公民館】</p> <p>渋民公民館活動事業</p> <p>【地区公民館】</p> <p>松園地区公民館活動事業 見前地区公民館活動事業 飯岡地区公民館活動事業 飯岡地区公民館図書室活動事業 乙部地区公民館活動事業 乙部地区公民館図書室活動事業 好摩地区公民館活動事業 玉山地区公民館活動事業 蕨川地区公民館活動事業</p> <p>【市立図書館】</p> <p>市立図書館資料整備事業 活動センター図書室運営整備事業 図書館コンピュータ運用事業</p> <p>【都南図書館】</p> <p>都南図書館活動事業</p> <p>【渋民図書館】</p> <p>渋民図書館資料整備事業 渋民図書館活動事業</p> <p>【区界高原少年自然の家】</p> <p>少年自然の家活動事業</p>
--

■ **数値による分析・評価**

○目 標 市民の社会教育への関心を高め、効果的な社会教育事業を展開するために、市民ニーズを的確に把握し、必要な講座の開催を維持する。

【具体的取組】 効率的な事業展開を図るため、周知方法の工夫などを行い、受講者数の増加に努める。

○対象指標 推計人口

○成果指標 ①市の講座数
②講座受講者数

① 市の講座数

区 分		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度 (最終年度)
講座数	目標値	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
	実績値	1,870	2,003	1,952	2,100	

② 講座受講者数 (人)

区 分		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度 (最終年度)
受講者数	目標値	115,000	115,000	115,000	115,000	115,000
	実績値	118,378	121,018	116,165	119,289	

<成果の分析と課題>

区分	目標達成度	成果の要因についての分析	今後の課題
【指標①】 市の講座数	A	講座の実施方法の見直しなど、様々な工夫により目標値を上回り実施した。	職員の資質向上に努めながら、ボランティア講師の活用など様々な工夫を行い、講座内容の充実を図っていく必要がある。
【指標②】 講座受講者数	A	各公民館等で市民ニーズに即した講座を開設するよう努力した結果、受講者数が目標を上回った。	現代社会の課題を的確に捉えた講座の充実も図っていく必要がある。また、周知方法や実施時期なども工夫していく必要がある。

■ **全体的な取組内容と成果の分析**

社会教育の充実を図るため、各公民館を中心として、家庭教育、少年教育等の多様な講座、教室を開催しているほか、学校や家庭、地域が連携し、学校支援地域本部事業などの事業にも積極的に取り組んだ。

平成25年度の講座数は、地域を知る地元学に関する講座、自然観察会などの環境への関心を喚起する講座などのほか、震災以降、防災につながる講座などが市民の関心を引き、受講者が増加したものと考えられる。

■ **今後の課題と取組方向**

社会教育は、地域住民同士が学びあい・教えあう相互学習等を通じて、地域住民の自立に向けた意識を高め、協働による地域づくりの実践に結びつけていく役割も担うものであり、こうした社会教育の活動が、活発に行われるような環境を醸成するよう、事業の周知をしながら、活動をアピールしていく必要がある。

そのためには、事業を実施する社会教育関係職員の資質向上に努めるとともに、他部局や民間団体などとの連携を強化し、現代的な課題についてのメニュー開発等を行って講座内容の一層の充実を図るほか、講座開設の情報についても、様々なメディアを活用して周知に努める。

(3) 社会教育施設の整備と活用

■ 主な事務事業

【生涯学習課】

大ケ生・姫神ふるさと学習センター管理運営事業 都南公民館・河南公民館管理運営事業
子ども科学館管理運営事業

【中央公民館】

中央公民館管理運営事業

【上田公民館】

上田公民館管理運営事業

【西部公民館】

西部公民館管理運営事業

【渋民公民館】

渋民公民館管理運営事業 玉山歴史民俗資料館管理運営事業

【地区公民館】

松園地区公民館管理運営事業 見前地区公民館管理運営事業 飯岡地区公民館管理運営事業
乙部地区公民館管理運営事業 好摩地区公民館管理運営事業 玉山地区公民館管理運営事業
藪川地区公民館管理運営事業

【市立図書館】

市立図書館管理運営事業

【都南図書館】

都南図書館管理運営事業

【渋民図書館】

渋民図書館管理運営事業

【区界高原少年自然の家】

自然の家管理運営事業

■ 数値による分析・評価

○目 標 市民が快適に利活用できる学習の場（施設）を提供することで、施設の利用者を増やす。

【具体的取組】（仮称）見前南地区公民館の建設及び市立図書館の整備について検討を進めた。

○対象指標 推計人口

○成果指標 ①社会教育施設数

②施設利用者数

① 社会教育施設数

区 分		22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度 (最終年度)
施設数	目標値	20	20	20	20	20
	実績値	20	20	20	20	

② 施設利用者数（人）

区 分		22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度 (最終年度)
利用者数	目標値	1,200,000	1,250,000	1,250,000	1,250,000	1,250,000
	実績値	1,197,055	1,199,903	1,211,763	1,186,584	

<成果の分析と課題>

区分	目標達成度	成果の要因についての分析	今後の課題
【指標①】 社会教育 施設数	A	現在ある施設を維持し、適切に運営した。	(仮称)見前南地区公民館を建設するとともに、蕨川地区公民館の移転整備の計画を進める。
【指標②】 施設利用 者数	B	図書館3館が、図書管理システム更新のため、9月下旬に一週間臨時休館したことから、利用者数が大きく減少した。	施設の老朽化が進んでいることから、市民が安全で快適に使用できるよう、施設・設備の計画的な修繕及び更新をしながら、快適な利用環境を提供していく必要がある。

■ **全体的な取組内容と成果の分析**

社会教育施設を中心に活動する団体・サークルの育成を図り、活動を促進することで利用者の増加に努めているが、利用者の固定化などにより利用者が停滞していると考えられる。市民サービスの向上や管理運営の効率化を図るため、施設の管理運営の在り方について検討している。

■ **今後の課題と取組方向**

利用団体・サークル活動を活性化するためには、活動の様子の紹介を行うなど、活動の支援を積極的に行う必要がある。また、市民が家庭教育及び社会教育への関心を高め、自発的に学習する環境を整備するためには、社会教育施設の安全かつ快適な管理運営が不可欠である。老朽化に対する改修等を適切に進めるため、中・長期修繕計画に基づき、計画的に整備できるよう予算確保に努めるとともに、(仮称)見前南地区公民館の建設及び市立図書館の整備の検討を進めていく。

3 歴史を受け継ぐ文化遺産の保護・活用

(1) 歴史的文化遺産の保護と活用

■ 主な事務事業

<p>【歴史文化課】</p> <p>指定文化財保存維持活用事業 歴史・文化資源等調査普及活用事業 盛岡城跡石垣修復工事・変位測量委託事務事業 志波城跡保存整備事業 遺跡の広場ネットワーク整備事業</p> <p>【遺跡の学び館】</p> <p>埋蔵文化財発掘調査事業</p>
--

■ 数値による分析・評価

○目標 市内に所在する文化財や歴史・文化資源，遺跡など埋蔵文化財の調査・研究を行うとともに，保存・活用を推進し，地域の歴史・文化に対する理解を深める。

【具体的取組】文化財等歴史文化資源調査（文化財資源調査，データカード集計等資料整理）

歴史文化保存活用計画の策定

盛岡城跡保存整備（石垣変位調査業務委託）

志波城跡保存活用（第Ⅲ期保存整備工事，志波城まつりの開催）

○対象指標 文化財指定等数，歴史・文化資源数

○成果指標 ①文化財数(国・県・市指定)

②歴史・文化資源(石碑・記念碑・歌碑など)累積調査件数

① 文化財数(国・県・市指定)

区 分		22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度 (最終年度)
文化財数	目標値	265	268	270	272	276
	実績値	267	267	268	270	

② 歴史・文化資源(石碑・記念碑・歌碑など)累積調査件数

区 分		22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度 (最終年度)
調査件数	目標値	9,180	9,680	9,700	9,711	9,717
	実績値	9,227	9,509	9,570	9,717	

<成果の分析と課題>

区分	目標達成度	成果の要因についての分析	今後の課題
【指標①】 文化財数 (国・県・ 市指定)	B	文化財の指定に向けた調査内容が細部に及んだことにより、件数が目標に達しなかった。	収蔵品の維持管理や展示機会の創出など活用方法が課題となっているほか、新たな対象物件の調査体制の充実を図る必要がある。
【指標②】 歴史・文化 資源（石 碑・記念 碑・歌碑な ど）累積調 査件数	A	今まで把握していなかった大清水多賀所有の歴史文化資源 90 件 90 点について緊急調査を行ったことにより、調査件数が増加した。	平成 22 年度で終了した文化財総合的把握モデル事業により把握した対象物件の分類整理と補足調査を行うとともに、盛岡市歴史文化基本構想を基に、さらに保存活用計画を策定する必要がある。

■ **全体的な取組内容と成果の分析**

指定候補物件の調査を行うとともに、歴史・文化資源の調査、指定文化財の管理者に対する維持管理費補助金の交付による維持保存、文化遺産の継承に努めたほか、近代化遺産建造物の公開事業などを実施し、文化財に対する市民の理解の促進を図った。

また、国指定史跡「志波城跡」「盛岡城跡」等の整備を行い、史跡の保護に努めるとともに、「志波城まつり」を開催し、史跡の活用を図った。

■ **今後の課題と取組方向**

主要な史跡について、計画的な保存管理に努めるとともに、継続的な活用を図っていく必要がある。また、年々増加する歴史・文化資料及び情報を蓄積する手段や手狭になっている資料等の保管施設の確保について検討する必要がある。

(2) 博物館施設の整備と活用

■ 主な事務事業

<p>【生涯学習課】</p> <p>子ども科学館管理運営事業</p> <p>【歴史文化課】</p> <p>原敬記念館・先人記念館・もりおか歴史文化館・盛岡てがみ館・石川啄木記念館指定管理事業 都南歴史民俗資料館管理運営事業</p> <p>【遺跡の学び館】</p> <p>遺跡の学び館管理運営事業 遺跡の学び館学芸事業</p> <p>【市民公民館】</p> <p>玉山歴史民俗資料館管理運営事業</p>
--

■ 数値による分析・評価

- 目 標 各施設の特徴を生かしながら、参加・体験型の企画展、特別展等を開催するなど、学習機会の拡充と文化的活動の充実に努め、来館者の拡大に努める。また、計画的な維持管理に努める。

【具体的取組】指定管理制度による館の運営（原敬記念館、先人記念館、もりおか歴史文化館、盛岡てがみ館、石川啄木記念館）
もりおかゆいとびあミュージアムネットワーク事業（スタンプラリーの開催など）
遺跡の学び館学芸事業（企画展、講演会、学芸講座、体験学習会、出前講座等）

- 対象指標 博物館施設数
○成果指標 博物館施設入館者数

博物館施設入館者数（人）

区 分		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度 (最終年度)
入館者数	目標値	184,000	336,000	374,000	330,000	330,000
	実績値	145,173	319,699	404,347	360,832	

※ 25年度入館者数には、25年12月から市に移管された石川啄木記念館の12月以降分を含む。

(参考：志波城古代公園入場者数) ※上記に含まない。

年度	22年度	23年度	24年度	25年度
入場者数(人)	15,027	11,211	16,034	16,529

<成果の分析と課題>

区分	目標達成度	成果の要因についての分析	今後の課題
【指標】博物館施設 入館者数	A	東北六魂祭や岩手ディスティネーションキャンペーンは終了したものの、各館の企画により、入館者数の減少を最小限にでき、目標数を超過した。	1 リピーターの確保のため、ソフト事業の充実と併せて、展示物の更新も必要である。 2 収蔵品の展示だけではなく、収蔵品を生かした教養講座や見学会などの参加型企画を増やすなど、新たな試みも必要となる。

■ 全体的な取組内容と成果の分析

太田・本宮地区に集中している博物館等5施設が、県立美術館と連携を図り、共同でのイベントや情報発信を行い、各施設の利用促進を図った。

入館者数については、増加している施設もあるが、一層の工夫が必要である。

指定管理者制度による運営は、良好であった。

■ 今後の課題と取組方向

博物館施設が連携を図ることにより、地域における施設の認知度が向上し、入館者の増加につながることから、今後も、盛岡ゆいとびあネットワーク（もりとびあねっと）などにより関係施設との連携を強化していく必要がある。

指定管理者制度に移行した施設について、市民サービスの向上と管理運営の効率化のため、指定管理者と連携を図るとともに、適切な指導を行っていく必要がある。

第5章 学識経験者の意見

1 点検評価会議の開催状況

次のとおり教育委員による点検評価会議を3回開催し、第3回会議において3人の学識経験者から意見をいただいた。

- | | | | | |
|-----------|---------------|-------|---------|--------|
| (1) 第1回会議 | 平成26年7月28日(月) | 午後3時 | 都南分庁舎2階 | 教育委員会室 |
| (2) 第2回会議 | 平成26年8月28日(木) | 午後3時 | 都南分庁舎2階 | 教育委員会室 |
| (3) 第3回会議 | 平成26年9月2日(火) | 午前10時 | 都南分庁舎3階 | 研修室 |

2 学識経験者からの意見

学識経験者からの主な意見は、次のとおりであった。

(1) 将来を担う次世代の育成

ア 運動能力の向上について、学力向上のために宿題をして遊ぶ時間が減少し、体力・運動能力が低下していくのを防ぐために、具体的には業間や朝遊びしかないと思うが、例えば、10分間業間を長くしたら、運動量が増えると思う。そういう具体的な取組を行う必要がある。

イ 全体の趣旨として、単年度ごとの評価となっている。5年、10年の長い期間で評価しなければいけないものもあると思う。長期的な目標があり、それを単年度に置き換えるるとこのようになる、という記載があると良い。

ウ 学力向上について、各団体等とどのような連携を図るのか、具体的に記載があると良い。

エ 国公立大学合格者数が指標になっているが、学生の定員削減や文科系学部の縮小といった大学改革を巡る状況を考えると、従来どおりの指標設定でよいのか課題になる。

オ 「県内唯一の市立高等学校として特色ある校風の創出に努めた」について、私立の高校や大学が参加している「さんさ踊り」に、市立高校も参加できないものか。盛岡の唯一の市立高校として盛り上げるために、何かできるのではないか。

(2) いつでもどこでも学ぶことができる環境の構築

ア 生涯学習指導者登録者数について、24年度に大幅に実績値が減少しているが、条件に合わせて、25年度の目標値を変更すべきである。

イ ホームページに講座情報を掲載しながら、学習相談件数にホームページへのアクセス数を反映していないのは、実態とかけ離れた数字になっているので、反映させるべきである。

(3) 歴史を受け継ぐ文化遺産の保護・活用

ア 文化財指定調査を進めていくのであれば、何年度に何を指定していくという、具体的な計画を作成すべきである。

イ 博物館施設の入館者数について、この数値を維持すべく、次年度以降も高い数値目標を掲げる方向で進めてほしい。志波城古代公園もガイドンス施設ができれば、数値に含めてほしい。

(4) その他

市立図書館の改築に際して、高松の池のほとりにあるので、「水」を使った特色ある図書館づくりにしてはどうか。